

当施設における内視鏡洗浄・消毒の質の保証について

宮城県対がん協会がん検診センター

○佐々木かおり、齋藤純子、中川知恵、藤村千恵子三浦和美、小野千恵美、池田由香、三島貴子、鈴木ゆき子、高橋万里子、盛田美樹、千葉隆士、加藤勝章、渋谷大助

【背景・目的】内視鏡の洗浄・消毒を精度高く実施するには、手順を正しく遵守することはもちろん、履歴管理や、内視鏡定期培養検査を実施する必要がある。また、スタッフが正しい方法で洗浄・消毒を実施することも質の保証となる。

当施設では上部消化管内視鏡検査の洗浄・消毒を当番制で実施しており、内視鏡の洗浄・消毒が適切に実施できているかということは重要なテーマである。今回当施設で実施している内視鏡洗浄・消毒の工程（以後作業の質）と、スタッフ教育について現状と課題を見つけたので報告する。

【方法】①作業の質：ガイドライン「消化器内視鏡の感染制御に関するマルチソサエティ実践ガイド」を参考に、当施設で実施している予備洗浄・機械洗浄・洗浄消毒の履歴管理・内視鏡定期培養検査について検討する。②スタッフ教育：（業務）マニュアル、スタッフ教育についての現状と課題を検討する。

【結果】①作業の質：内視鏡の洗浄・消毒は概ねガイドライン通りに実施。さらに履歴管理、内視鏡培養検査を年1回実施し、洗浄機のチェック時期や洗浄工程の見直しを実施していた。②スタッフ教育：画像入りの洗浄マニュアルを作成し、洗浄・消毒の手技のチェックリストによりスタッフの洗浄手技が統一できるよう工夫していた。

【課題・まとめ】今回の検討で当施設の感染対策および評価は適切に行われていたが、今後より効率的で効果的な洗浄・消毒を実施できるよう、①定期培養検査の評価時期や項目の検討、と②スタッフ教育においては、洗浄・消毒マニュアルの見直しと定期的な研修会の実施が必要である。